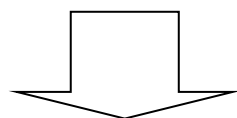


令和4年度授業改善推進プラン

教科【社会】科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的用語に対する知識・理解はあるが、時代の流れあるいは各時代の結び付きに関する認識が低い。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱心に授業に取り組む生徒が多く、発言が活発である。しかし、知識・技能の定着等に課題がある。 	<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着ができておらず、資料の読みとりや思考を伴う問題に対して苦手意識をもっている。 <p>(地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史に比べると意欲的に取り組む生徒が多いが、定期考査などで知識をアウトプットする力が身に付いていない。 	<p>(歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の取組や、社会的事象を追求する意欲が見られる。ICT機器の取り扱いに関するスキルに差が出てきている。 <p>(公民)</p> <ul style="list-style-type: none"> 政治や経済に関する関心はあるが、学習内容と実生活を結び付けて考える意欲が低い。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<p>(歴史・地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史の流れが強調できていなかったため、並び替え問題の正答率が低かった。 単元の見通しをもたせる必要がある。 単元ごとに学んだ内容をまとめる力が不足している。 資料の読みとりに課題がある。 	<p>(歴史・地理)</p> <ul style="list-style-type: none"> スライドを用いて年表を作り、時代の流れを把握できるようにする。 単元評価シートを採用し、単元の見通しをもつことで、主体的に学習に取り組む態度を養う。 単元評価シートの中で毎回授業内容をまとめさせる。 ICT機器を用いて世界の各地域に関するデータ資料を使い、資料の分析力を養うとともにその意義も理解させる。
2年	<p>(地理・歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策の観点からあまり班活動を行うことができなかった。 単元評価シートの評価基準が甘くなってしまった。 資料やグラフの読み取りをする機会が少なかった。 	<p>(地理・歴史)</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を有効に活用し、データを共有しながら編集をしたり、ジャムボードを利用した意見交換などを行ったりしていく。 採点の際に必要なキーワードを複数用意し、授業内でもポイントとして事象の前後関係も含めて指導する。 小テストや単元テストなどを実施し、学力の向上を把握しやすくする。 思考力・判断力・表現力を養うためにタブレットを積極的に活用し、生徒が他の生徒に教えるエキスパート授業を行っていく。 個人のタブレット端末に資料を共有し、資料やグラフの読み取りをする機会を増やす。
3年	<p>(歴史・公民)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験に対する意識が高く、テストの点数ばかりに気を取られ、授業内の活動がおろそかになっている生徒がいた。 単元同士のつながりを理解させることができなかった。 授業内容と都立入試との関連が薄かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味関心をひき出し、活動に参加したくなるような魅力のある授業実践ができるよう、教材研究に精進していく。 単元を貫く学習課題で、前後の単元とのつながりを意識し、復習と予習を兼ねた課題を設定する。 タブレットを用いた班活動を行い、授業内容をスライドでまとめることで思考力・判断力・表現力を養う。 定期考査などの問題に入試問題を参考にしたものを取り入れたり、eライブラリの学習課題を課したりすることで、常に都立入試に関連した授業を展開する。